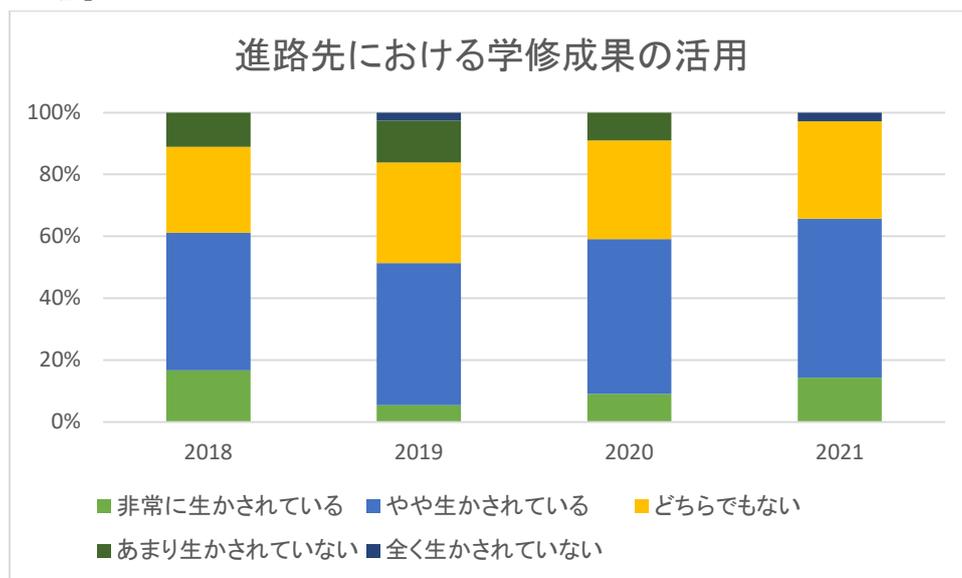


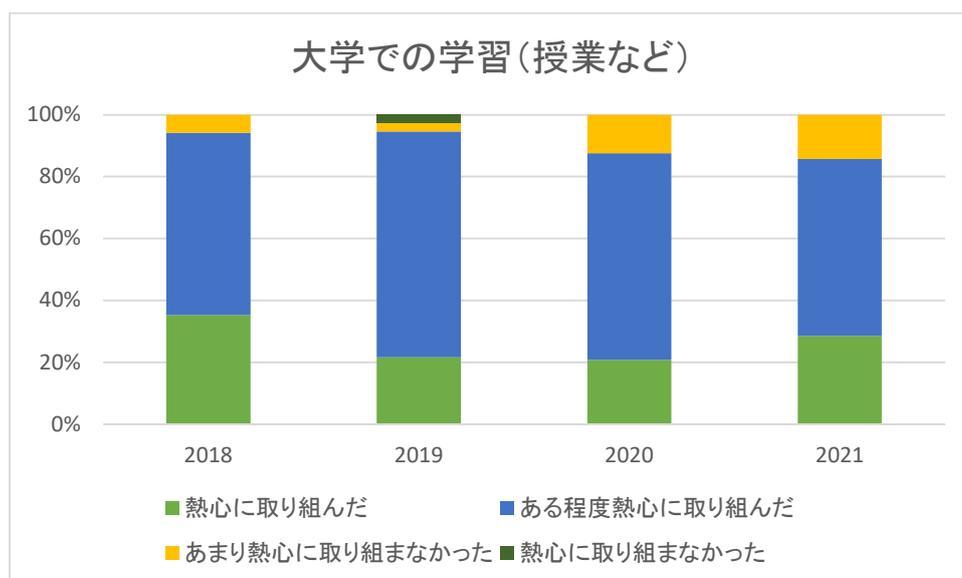
令和3年度卒業生調査結果概要

公益学部では、卒業後3年目を迎える卒業生を対象にアンケート調査を実施し、進路先において学修成果がどのように活かされているか等について、過年度との比較を行っている。令和3年度（令和3年8月実施）では、144名に調査票を送付し、36名から提出があった。以下、重要な項目について分析結果を記す。

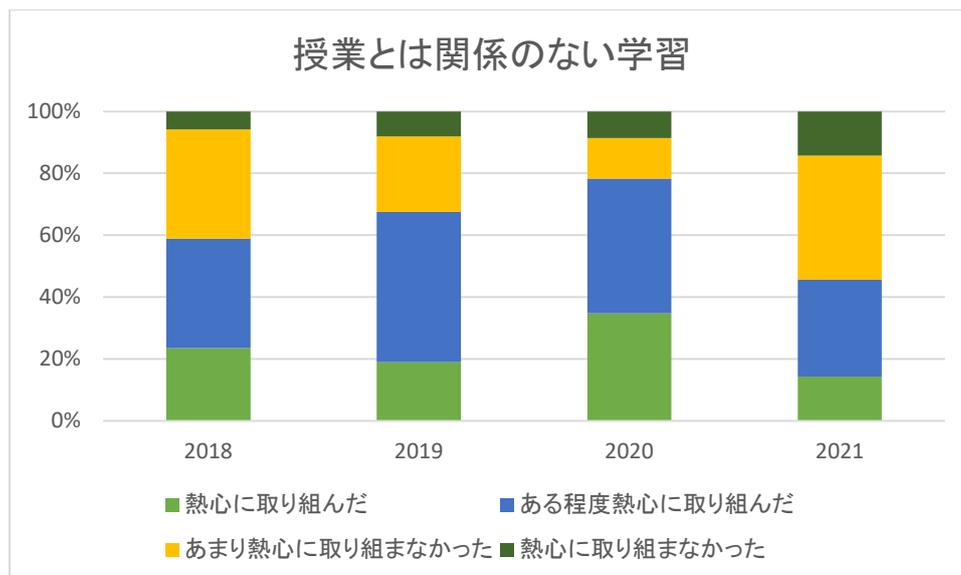
【マーク式回答】



「非常に活かされている」「やや活かされている」の合計がさらに増え、63.9%となった。記述式にも本学での学びが役立っているとの回答が多く、平成26年度入学生から導入されたカリキュラムの成果が活用されていると評価できる。



「熱心に取り組んだ」が27.8%に増えたが、「あまり熱心に取り組まなかった」も増加した。後者については、記述式で「大学の授業が実践において非常に重要なことを、今更ながら痛感」と回答した卒業生もあり、そういった見方が反映されたものと推測される。



「熱心に取り組んだ」「ある程度熱心に取り組んだ」が 44.4%と、「大学での学習」と対照的な結果となった。新カリキュラムの導入にあわせて、事前・事後学修の内容や時間数をより明確にしたこともあり、「大学での学習」に多くの時間と労力を使ったものと考えられる。

【記述式回答】

Q. 具体的にどのような学習がどのような場面で生かされていますか。

- A1. 情報処理科目で学んだエクセル等の使い方が現在の仕事で報告書作成等に活かしている。
- A2. グループディスカッションで自分の意見をまとめて相手に伝える、発信する力を培ったことが現在会議や研修等で活かされている。
- A3. グループワークが多かったことがとても役立っています。役決めや制限・期限などもあり、皆で目的・目標に向かっていく（中略）多数の機会がありました。
- A4. 地域に出て、フィールドワーク等を通し、自分の目で見て考えたり、様々な人々と関わったこと。接客業のため、様々な世代の方々とお話しできるようになった。
- A5. 社長インターンシップで、仕事や会合に同行し、経営者の人間関係やモノの考え方を知り、世界の広さと悔しさを感じました。その悔しさや経験、経営者にいただいた言葉などが、今現在の積極性や挑戦する原動力になっています。

（以上、実際の回答から 5 つを選んだ。）

平成 26 年度入学生から適用されたカリキュラムでは、「グローバルな視野を持ち、地域の人々とともに、地域社会が直面する経済、行政、福祉などの課題に、リーダーシップを持って果敢に取り組む人材」という育成像を掲げ、カリキュラムポリシーで「学生同士のグループワークの実施や成果を発表する機会を多く取り入れる」「地域の人々とのコミュニケーションを図りながら、地域の課題を発見・分析し、問題解決への解を見つけ、提言を行う能力を涵養する」といった方針を明確にしている。今回調査の対象となった卒業生は、このカリキュラムが導入された翌年度に入学しているが、平成 28 年度に採択された「大学教育再生加速プログラム（AP）」の取り組みなどによる教育改善の成果もあり、まさに狙いどおりの能力やスキルの育成ができたと高く評価できる。